



なばり

2013年(平成25年) 6月2日発行

主な内容

- 2……洪水・土砂災害ハザードマップ活用 上級救命講習の募集
- 3……市営住宅入居者募集、教育相談会の開催、認知症講演会
- 4……来年3月に名張は市制施行60周年

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp ㊚http://www.city.nabari.lg.jp

大雨や台風の季節、地域で備える

“いざというとき” その日が来る前に!



これから、大雨や台風シーズンがやってきます。

市内の地域づくり組織では、防災対策をひとつのテーマとしたまちづくりが進められています。自然災害へ立ち向かうためには、自分で身を守る「自助」、地域で助け合う「共助」が不可欠です。今号では、薦原地域づくり委員会の 山下 員啓さんに自主防災隊の取組みについてお話を伺いました。

☎ 危機管理室 ☎ 63-7271



地区で独自の防災マップを作成

地域の課題を再確認できました。

かすひろ
■ 山下 員啓 さん

薦原地域づくり委員会
自主防災隊長



八幡区で作成した独自の防災マップ
消火栓や危険箇所など、細かな情報まで書き込まれています。

災害時のことを考え、 自主防災隊を再編

八幡区長をしていたとき、東日本大震災が発生しました。薦原地域の自主防災隊について調べると、20年ほど前に組織された自主防災隊の名簿がありました。世代も変わり、最近では活動していないことがわかりました。薦原地域は名張川と小波田川の最下流域に位置し、洪水時には浸水が想定される区域や土砂災害危険箇所が多くあります。また地域内には、橋が10カ所ありますが、老朽化しているものがあり、洪水など自然災害が発生し、橋が使えなくなるときは、一部の地区が孤立する危険もあります。

独自の防災マップ作成 地域の課題を再確認

やはり、地域としても対策を考えねばと思います。区長が集まり自主防災隊について検討を始めました。防災講演会などを通して、住民の皆さんに地域で助け合う、自主防災隊の重要性を呼びかけたのです。そして、昨年6月に80人の薦原自主防災隊を再編しました。

地域でできることを 継続してやる

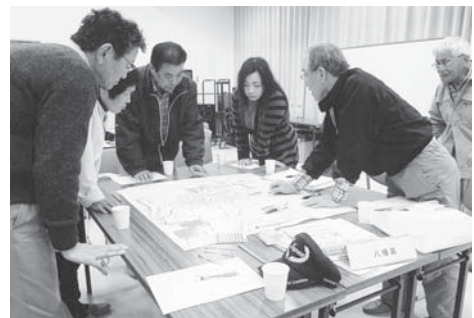
一時避難所まで実際に歩いてみました。避難所まで一人暮らしの高齢者をどう助け、誘導できるか。そして、防火水槽や消火栓は、どこに何カ所あり、どう使うかなどを確認すると、消防団員に消火訓練を実際に行ってもらいました。

いざ歩いてみると地域の風景なども違って見え、自分が住んでいる所なのに、知らないことも多く、防災マップ作りは、地域の発見と再確認という点でも大きな成果がありました。

現在、薦原地域にある薦生、八幡、西田原、鶴山、家野、葛尾、さつき台の7つの地区で、自分たちの住む地区で災害が起こった場合を想定して、課題を見直しています。同時に、市で昨年発行されたハザードマップを活用して、その地区独自の防災マップを作成しているところです。

わたしの住む八幡地区でも、防災マップを作成するため、自主防災隊の隊員が

今年度は、市との協働事業で、防災用ヘルメットや救急セットなど防災用品を配備する計画です。地域ができることは地域でやる必要があります。災害はいつ起こるか分かりません。自主防災隊の組織で、絶えず住民の防災に対する意識を啓発し、防災に対する備えが浸透するように、これからも地域で力を合わせていきます。



地域では、防災講演会や大きな地図を囲み災害をイメージして課題をさぐる図上訓練も実施しています。